

- 小山教授より、平成 27 年度に実施する予定の事業計画について以下のとおり説明がなされた。
  - 平成 27 年度から開講する教育プログラムについては、講義・演習型の知識・スキルに関する科目、事例研究型の事業開発手法に関する科目及びPBL型の業務遂行能力に関する科目の3段階に分類して実施する。当教育プログラムの科目については、本学教員に加え、委員会委員等外部有識者からの協力を得て、新規開講科目を設置する。
  
- 意見交換
- 《当事業の育成する人材について》
  - 新しいビジネスを起こす際に、アナログな手法を用いてきた既存の事業にデジタルな手法を導入し、効率化を図るか、あるいはデジタル化によって既存の事業を破壊するか、2つの方法がある。どちらを対象として人材を育成するのか。(日立 菊池委員)
  - どちらか一方に制限する必要はないと考えている。第三次産業の効率化は国家的に求められており、これに対応する人材の育成は重要である。授業科目としては、当面この方面を主に教授する予定である。他方で、デジタル化によって既存の事業を破壊する人材の育成も無視することなく、次年度の PBL 教育の設計等を検討していくことを期待する。(産技大 川田委員長、小山委員)
  
- 《学び直しの動機付け》
  - 当事業で実施する学び直しプログラムを修了した学生に認定証等を発行し、東京都でのビジネス立ち上げに支援を受けられるなど、東京都と連携した動機付けを与えられるとよい。(日本 IBM 井手田委員)
  
- 《教育内容》
  - ビジネスモデルの教授は非常に重要であるため、教育プログラムのどこかに入れると良い。(横河電機 為谷委員)
  - 問題意識を持つことが重要。ケーススタディや、あるいは実際に現場を見学するなど現場との対話も、問題意識を持つ意味で重要である。(NEC マネジメントパートナー 但田委員)
  - デザインシンキングを単発でなく繰り返すこと、課題の発見と解決策の案出を行える能力を育成することが重要である。(日立 菊池委員)
  - 能力的な面だけでなく、起業家のマインドをいかに醸成するかという点も検討するべきである。(産技大 川田委員長)
  - 起業するに当たって知っておくべき最低限の知識を得ておくことが、起業において有用と考える。(産技大 小山委員)

- まずプロジェクト型の科目を受けさせ、課題や問題点を浮き彫りにした後で講義等の科目を受けさせる構成にすると、講義の意義が学生により実感できるかもしれないため、検討する余地がある。(楽天 浅見委員ほか)
  - 各授業科目の重み付けを明確にし、より重点的に教えるべき講義を優先すると、効果的な学修を提供できるかもしれない。(横河電機 為谷委員)
  - スタートアップの際に、プレゼンテーションスキルを養成できると良い。考えていることを可視化できる能力は重要である。(NEC マネジメントパートナー 但田委員ほか)
- 総括
 

小山委員より、平成 27 年度は以下の点について検討したい旨の説明がなされた。

    - 当教育プログラムの修了生が社会の中でキャリアアップ等を行っていくための仕組み
    - 社会人の学び直しを推進するための学修環境の整備

また、遠隔授業等における委員所属企業との連携については、具体的な連携の仕方を含め、今後検討していくこととした。協力企業の希望者に当事業のプログラムに試験的に出席していただき、意見を聞くなど協力してもらえよう調整を行っていくこととした。

最後に、小山教授より、今後の委員会等のスケジュールについて、平成 27 年度の4月を目安に委員会を開催する予定との説明がなされた。

## 2.2 プログラム開発委員会

### 2.2.1 第1回プログラム開発委員会

- 日時:2014/12/18(木) 14:00-16:00
- 場所:産業技術大学院大学 308 大会議室
- 出席者
 

(産業技術大学院大学委員)

川田 誠一 氏(産業技術大学院大学 産業技術研究科長 創造技術専攻 教授)

小山 裕司 氏(産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)

酒森 潔 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻長 教授)

佐々木 信夫 氏(産業技術大学院大学 特任教授)

文屋 宏 氏(産業技術大学院大学 特任助教)

(外部委員)

上野 新滋 氏(FUJITSU ユニバーシティ エグゼクティブ・プランナー)

佐藤 学 氏(サイボウズ株式会社 ビジネスマーケティング本部 BPM 部 アライアンスマネージ

ヤ)

日下 康幸 氏(アストロラボ株式会社 代表取締役 CEO)

花田 徳康 氏(メドコネク株式会社 代表取締役)

鴻巣 英典 氏(株式会社 mediba 新規事業企画部 部長)

釦持 勝 氏(イー・リゾート 代表)

- 議事内容

- 《委員紹介》

外部委員より各々の属する会社の事業概要、担当業務の紹介が為されると同時に学内各委員より、所属する研究科が紹介された。

- 《事業概要》、《カリキュラム設計》

- 小山教授より、「学生募集資料(社会人学び直し)」の資料を使用し、文科省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」の概要、及び本学の提案概要についての説明が行われ、今回プログラム開発委員会に強く期待しているのは、本学が最終的に目的・目標・成果として目指している5つの項目の内、特に「事業アーキテクト養成の教育プログラム」と「事例研究(ケースメソッド等)型の教育手法及び事例教材」作成への協力であることが、養成する人材像、新設科目に関する詳細説明と共に述べられた。

- 上記説明を補足する形で、川田研究科長・教授より、“社会人を中心とする学生構成”、“最初から問題与え、それを解決するには何が必要かを学ばせる手法”等、本学の特徴に関する説明があった後、「今回は今まで学んでいなかった人が入学したくなるようなプログラム開発をしたい」との強い思いが示され、「この観点で委員の方々に色々とお考え頂き、委員の方々ご自身が大学に来たくなる様なプログラムを作って頂きたい」旨の依頼が為された。

- 《意見交換》

- 観光、農業、スポーツが詳しく分かっている分野であるが、3分野に共通して言えるのは所得が低いと言うことだ。観光は、外国人観光客 1 億人を呼べるコンテンツを持っているが情報面で問題があり、上手く集客出来ていない。低所得故の高度人材確保の難しさ、高い離職率、人材育成の困難さ等問題は山積みしている。また、農業に於いても、ITが十分に活用されない事による農協頼りの安値販売、失敗事例が共有されない事による無駄の発生等、こちらも問題は沢山ある。今、成長性があると言われている産業が、揃って皆底辺にあるのでやる事は一杯あると思うが、同時にかなり困難が伴うものでもあると思っている。(イー・リゾート 釦持委員)

- 新設科目の中ではスタートアップに関する部分でプログラムの提案をさせて頂けると思う。現在の会社の前に2社立ち上げており、1社はスタートアップ会社で、もう1社はメディア会社であった。社内起業から実際の起業に至るまでの経験から、非常に重要であると考えているのは人材、組織論である。  
事例で重要なのは、どう言ったところにキャッチアップする事を考えて行くか、海外、国内と言った分け方だけでなく、成功事例、失敗事例も見て行く必要があると思う。自分たちの考えているサービスを実践の場に出して行くピッチイベントも重要である。ユーザー、投資家の立場からの考えて見ることも大切だ。事業計画に関しては、その前の事業企画から考えて行くことが重要で、この点に関しては、現在の会社のやり方を紹介することで協力出来ると考えている。(mediba 鴻巣委員)
- 医療は範囲が広く、出来る事は沢山ある。今自社でやっている3Dプリンターの仕事も、医師のための仕事であるが、整形外科、リハビリテーションでは、カスタムメイドの装具の仕事が求められており、動物病院では、インプラントが必要とされている等、やれる事はいくらかもある。個人的には北海道出身なので本店は北海道の住所としており、地元の役に立てれば良いと考えている。従って、農業も興味のある分野である。(メドコネクト 花田委員)
- 大規模企業の業務改善の仕事から始まり現在起業3社目で、新設科目の経営戦略持論では、経営計画、投資、スタートアップ戦略持論では、起業、資金調達に詳しく、ブランドも苦労した分色々話が出来ると思う。マーケティングもCRMシステムを色々作り、特に青木の経験から戦略的な画面構成の重要性と言うものも分かっているのので、この様な話もさせて頂くことが出来ると思う。(アトラスラボ 日下委員)
- サイボウズの、36歳以上は起業してスタートアップしろと言う方針に沿って起業。サイボウズの開発部長時代「kintone」と言うグループウェアを開発し、最近ようやく使い物になって来ており、千葉大で地域再生のスタートアップに使用してもらったり、センサーと連動し農場でも使われる様になって来ている。事例として提供出来るものと思う。学生にも使って頂き、良い使い方を考えて頂ければと考えている。(サイボウズ 佐藤委員)
- 個人としてではなく、会社としてどうお役に立てるかを考えているが、医療、農業、地域振興等、広範囲に亙り各分野に専門家がおり必要に応じてこれらの専門家がお役に立たせて頂く事が出来ると思っている。防災、復興の分野も力を入れている分野で、これらに関してもお役に立つことは出来る。予防、医療、介護等、次世代の医療の姿を描く分野、Social Innovation 系分野が一番良いのではないかなと思う。(FUJITSU ユニバーシティ 上野委員)
- NEC としても、コンシューマーから社会インフラにシフトしており、事業アーキテクチャと言った内容は、自社の若い社員に聞かせたいプログラムである。首都大学とサービス科学(教育サービス)の分野で文科省案件で協力関係にある。何れの事業分野に於いても、サービスと言った切り口からモデル化が可能で、何が成功モデルかと言った事が見えて来ることも

考えられるので、この辺で何かお役に立てればと思います。(NEC マネジメントパートナー 大久保委員)

- 《総括》

最後に小山教授よりクロージングとして、外部委員の話をお聞きして、プログラムを先に進め易くなった事への感謝の言葉が述べられると共に、外部委員の人脈で、プログラム作成、事例の提供等への協力要請があった。

次回開催までに、特定事例の作成等の準備のために細かくワーキングチームを作って作業を進める事を考えており、別途個別に対応依頼する旨を伝えた。

## 2.2.2 第2回プログラム開発委員会

- 日時:2014/03/10(火) 18:00-20:00

- 場所:産業技術大学院大学 308 大会議室

- 出席者

(産業技術大学院大学委員)

川田 誠一 氏(産業技術大学院大学 産業技術研究科長 創造技術専攻 教授)

小山 裕司 氏(産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)

酒森 潔 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻長・教授)

越水 重臣 氏(産業技術大学院大学 研究科長補佐創造技術専攻 教授)

文屋 宏 氏(産業技術大学院大学 特任助教)

(外部委員)

平山 敏弘 氏(日本 IBM 株式会社 上級 IT スペシャリスト)

上野 新滋 氏(FUJITSU ユニバーシティ エグゼクティブ・プランナー)

花田 徳康 氏(メドコネット株式会社 代表取締役)

鴻巣 英典 氏(mediba 株式会社 新規事業企画部 部長)

小松 宏行 氏(株式会社ワークスアプリケーションズアドバンス・テクノロジー&エンジニアリング本部 Executive Fellow)

飯尾 淳 氏(中央大学文学部社会情報学専攻 教授)

名嘉村 盛和 氏(琉球大学工学部 情報工学科 教授)

宮里 大八 氏(琉球大学琉大コミュニティキャンパス事業本部 特命准教授)

- 議事内容

- 《委員紹介》

外部委員より各々の属する会社の事業概要、担当業務の紹介が為されると同時に学内各委員より、所属する研究科が紹介された。

- 《カリキュラム設計(事業アーキテクトコース)》

小山教授より、「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」において当年度設計し、次年度に実施する予定のカリキュラムに関する報告がなされた。一例として、農業分野におけるITの活用に関して予定している講義の概要について説明がなされた。

- 《意見交換》

- 1分野を1名の講師が講演するだけでなく、同じ分野を異なった立場の講師が複数で講演することで、相違を比較できるように工夫するのも効果的である。(株式会社 mediba 鴻巣委員ほか)
- 正規の授業だけでなく、AIIT起業塾のように比較的自由にテーマを設定できるイベントもあるため、委員各位でご了承いただける方には適宜講師としての協力をお願いしたい。(産技大 小山委員)
- 対象分野の現状を学ぶとともに、未来の技術動向や未来予測を扱うことも有用である。(日本IBM 平山委員)
- ITの技術やその使い方を中心に教授する方法と、現場を中心に教授する方法がある。どちらを取り上げるのか、それともバランスをどう取るのか。(富士通 上野委員)  
⇒現状では、現場を中心とした教授を多く想定しているが、今後はバランスについても考えていきたい。(産技大 小山委員)
- スポーツや環境問題などについても、カリキュラムに取り入れられないか検討いただきたい。(富士通 上野委員ほか)
- スタートアップ特論や事例研究等、外部委員にご協力いただける分野にはぜひ講義へのご協力をお願いしたい。(産技大 酒森委員ほか)
- 産業分野の概要を説明するだけでなく、実際にビジネスに落とし込むことができる内容を講義に取り入れるため、実際に起業や事業開発を行った経験を持つ講師を招聘することが望ましい。(富士通 上野委員 ほか)
- 2年次のPBLについて、学生の募集方法やテーマ等については、平成 27 年度に検討したい。(産技大 小山委員ほか)

- 《総括》

最後に小山教授より、平成 26 年度の協力に感謝の意を述べるとともに、平成 27 年度はプログラムを実施することとなり、引き続き委員各位への協力依頼がなされた。

## 2.3 学内定例会議

### 2.3.1 学内定例会議#1

- 日時:2014/10/28(火) 15:15-16:30
- 場所:産業技術大学院大学 259 会議室
- 出席者
  - 川田 誠一 氏
  - 小山 裕司 氏
  - 佐々木 信夫 氏
- 次第
  - 活動内容
  - 作業項目
  - 詳細作業内容及び担当者
  - 概略スケジュール
  - JMOOC の活動への織り込み方法の確認
  - 特任助教の雇用

### 2.3.2 学内定例会議#2

- 日時:2014/11/25(火) 15:30-17:00
- 場所:産業技術大学院大学 259 会議室
- 出席者
  - 川田 誠一 氏
  - 小山 裕司 氏
  - 酒森 潔 氏
  - 國澤 好衛 氏
  - 佐々木 信夫 氏
- 次第
  - カリキュラム設計
  - 新設科目・新コース設置に向けた手続きと今後の進め方
  - 「事業アーキテクト」養成プログラム
  - 社会人学び直し推進委員会
  - プログラム開発委員会及びワーキンググループ

- 広報
- 就学費用のファクトシート・シミュレーション、学生募集
- 学び直し初期広報活動実施内容及び予定時期
- 特任助教雇用の状況報告
- その他

### 2.3.3 学内定例会議#3

- 日時:2014/12/24(水) 17:00-18:00
- 場所:産業技術大学院大学 259 会議室
- 出席者
  - 川田 誠一 氏
  - 小山 裕司 氏
  - 酒森 潔 氏
  - 國澤 好衛 氏
  - 佐々木 信夫 氏
- 次第
  - 社会人学び直し推進委員会の議事等確認
  - 育児支援等の取組について
  - 特別入試、託児所関係の意見交換
  - 自治体等の運営する保育施設について
  - 託児所設置に当たっての課題

### 2.3.4 学内定例会議#4

- 日時:201/01/21(水) 15:00-16:00
- 場所:産業技術大学院大学 351-b 会議室
- 出席者
  - 川田 誠一 氏
  - 小山 裕司 氏
  - 酒森 潔 氏
  - 國澤 好衛 氏
  - 佐々木 信夫 氏
  - 文屋 宏 氏